

13. Complex-Banach space への解析函数 = ツイ(1)

大 霜 田 伊 左 衛

(1946, XI, 19)

A. E. Taylor 氏の Osgood 定理を拡張して、変域を複素平面から complex-Banach space  $E'$  / product space へと値域を complete Banach space  $E''$  = 取つて居ります。此 note の目的は複素平面を complex-Banach space  $E$  = 拡張するコトであります。

必要、 $\forall x \in A$ . E. Taylor 長、定理 A, 定理 B' を  
 示します。

**定理 A**  $E, E'$  は complex Banach space とする。トキ  
 $\{f_n(x)\}$  は  $E$  の domain  $D$  で定義せられ、 $E'$  の値ヲト  
 ル regular な函数、sequence とする。若シ

- i)  $D$  の各点  $x$  で  $\lim_{n \rightarrow \infty} f_n(x) = f(x)$
- ii)  $D =$  含マレル任意、領域  $D$  が有界  
 とするトキ  $f(x)$  は  $D$  で regular とする。

**定理 B**  $f(x, y)$  は  $E \times E'$  の、domain  $D$  で定義せられ  $E''$   
 の値ヲトする。

- i)  $D =$  於テ  $x$  を fix すれば  $y \rightarrow$  ツキ正則  
 $y$  を fix すれば  $x \rightarrow$  ツキ正則
- ii)  $(x, y) \rightarrow$  ツイテ連続 とする  
 $f(x, y)$  は  $D$  で正則 とする。

**定理 1**  $\{f_n(x)\}$  は  $E$  の domain  $D$  で定義せられ  $E'$  の値ヲ  
 トル正則函数  $f_n$  の sequence とする。若シ

- i)  $D$  の各点  $x$  で  $\lim_{n \rightarrow \infty} f_n(x) = f(x)$
- ii)  $D =$  含マレル任意、compact set  $G =$  於テ  
 $M_G (> 0)$  が存在シテ  $\|f_n(x)\| \leq M_G$ , とするトキ  $f(x)$  は  $D$   
 で正則 とする。

(証明)  $D$  の  $\forall$  任意、点  $x_0$  とする。  $\exists \delta > 0$  於テ  
 $\|x - x_0\| \leq \delta$  とするトキ  $\|f_n(x)\| \leq M$  とする様、 $\forall \epsilon > 0$  正数  
 が存在シテカットスレバ  $x_n \rightarrow x_0, \|f_{m_n}(x)\| > \epsilon,$   
 $f_{m_n}(x) \notin \{f_n(x)\} \quad x_n \in D$ , とする様、 $\{x_n\}$  が  
 存在スル。  $\{x_n\}$  は compact set とする故、ii) = ヨリ  
 $f_n(x)$  は  $\{x_n\}$  で有界  $\forall n$  とする。之、不合理  
 とする故、 $\forall \epsilon > 0$  正数  $\rho, M$  が存在シ  $\|x - x_0\| < \rho$  と  
 するトキ  $\|f_n(x)\| \leq M$  とする。又  $x_0 \in D$  とする故  $\|x - x_0\| < \rho$   
 $D =$  含マレル様、出来ル。ココで  $\|x - x_0\| < \rho =$   
 理 A を適用スレバ  $f(x)$  は  $\|x - x_0\| < \rho$  で正則 とする。  
 $x_0$  は任意、とる故  $f(x)$  は  $D$  で正則 とする。

[註1] 定理1が成り立つならば容易に定理Aも成り立つことが分りますから、定理Aと定理1は同等です。

**定理2**  $E \times E'$ , domain  $D$  で定義せられ、 $E''$ , 値をとる函数  $f(x, y)$  が

i)  $D = \{x \in E \mid \exists y \in E' \text{ fix } x \text{ すれば } y = \text{ツキ正則}\}$ ,  
 $y \in E' \text{ fix すれば } x = \text{ツキ正則}$

ii)  $D = \text{含まれる任意, compact set } G \text{ で}$   
 $\|f(x, y)\| \leq M_G$  かつ  $f(x, y)$  は  $D$  で正則となる。

(証明)  $D = \text{含まれる任意}$  の点  $(x_0, y_0)$  とする時、 $R, S (> 0)$  を適当にとれば  $\|x - x_0\| < R, \|y - y_0\| < S$  は  $D = \text{含まれる}$ 、従って此所で  $f(x, y)$  が正則となる事が分れば、 $(x_0, y_0)$  は任意であるから  $f(x, y)$  は  $D$  で正則となる。依って一般性を失ふことなく、

$(x_0, y_0) = (0, 0)$  とし、 $f(x, y)$  は  $(T, T')$  (但し  $T: \|x\| < R, T': \|y\| < S$  を表す) で各変数 = ツキ正則で、 $(T, T')$  の任意の compact set  $G$  で  $\|f(x, y)\| \leq M_G$  とする。  $f(x, y)$  は  $(T; T')$  で正則となることを証すればよい。

$f(x, y)$  は  $x$  を fix すれば  $y = \text{ツキ正則}$  となる故に、如く展開される

$$f(x, y) = \sum_{n=0}^{\infty} U_n(x, y)$$

ここ  $U_n(x, y)$  は  $y$  = ツキ  $n$  次、各次多項式となる (各次多項式) の定義はオ一号、17頁を参照下さい)

但し  $\alpha = \text{今 } y \text{ を fix すれば } \rho < \frac{S}{\|y\|}$  かつ  $\rho$  をとり、 $\theta \subset C$  かつ  $|\alpha| = \rho$  を表はせば

$$U_n(x, y) = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{f(x, \alpha y)}{\alpha^{n+1}} d\alpha \quad (n=1, 2, \dots)$$

$\theta \subset C$  上  $= m$  点  $\xi_1, \xi_2, \dots, \xi_m$  ( $\xi_{m+1} = \xi_1$  とおく) をとり 弧  $\xi_i \xi_{i+1}$  上  $=$  任意の点  $\eta_i$  ( $i=1, 2, \dots, m$ ) をとり

$$S_n(x) = \frac{1}{2\pi i} \left( \sum_{i=1}^m \frac{f(x, \eta_i y)}{\eta_i^{n+1}} (\xi_{i+1} - \xi_i) \right)$$

トオク。但シ  $m \rightarrow \infty$  ナルニ  $f \in C$  ニ於テ

$\max_{1 \leq i \leq m} |\xi_{i+1} - \xi_i| \rightarrow 0$  ナル様ニシテオク。然ルトキハ

i)  $S_m(x)$  ハ  $T$  上正則ナル。

ii)  $x \in T$  ノ  $i$  任意ニテ  $\lim_{m \rightarrow \infty} S_m(x) = U_n(x, y)$

$$\lim_{m \rightarrow \infty} S_m(x) = U_n(x, y)$$

iii)  $T = \text{合}$  ンル任意ノ compact set  $T \subset G_0$

トスル  $(x, y)$  ハ compact set ナル故

$G = (G_0, C_T)$  ハ  $D$  上 compact set トナル

故ニ  $M_G$  ナ存在シテ

$$\|f(x, \alpha y)\| \leq M_G \quad (x \in G_0, \alpha \in C)$$

$$\|S_m(x)\| \leq \frac{1}{2\pi} \sum_{i=1}^m \frac{\|f(x, y_i, y)\|}{|y_i|^{n+1}} |\xi_{i+1} - \xi_i| \leq \frac{M_G}{\rho^n}$$

依ッテ定理 1 =  $\exists$  リ  $U_n(x, y)$  ハ  $x \in T$  正則トナル

一  $U_n(x, y)$  ハ  $x$  ヲ fix スルバ  $y \mapsto U_n(x, y)$  係  $\text{linear}$  ト

ナルカテ Kernel 定理<sup>2)</sup> =  $\exists$  リ  $(x, y) \in T \times E'$

上連続トナル。故ニ定理 B =  $\exists$  リ  $(T, E')$  上正則ト

ナル 補一般ニ

$$U_n(x, y) = \frac{1}{n!} \left\{ \delta^n f(x; y_1, y_2, \dots, y_n) \right\}_{y_1=y_2=\dots=y_n=y}$$

$\delta^n f(x; y_1, y_2, \dots, y_n)$  ハ  $x$  ヲ fix シテ

$y_1, y_2, \dots, y_n$  = 付テ  $\text{linear}$  トナル

$y_1, y_2, \dots, y_n$  ヲ fix スルバ  $\|\alpha_i\| \leq \rho$  ( $i=1, 2, \dots, n$ )

トナルニ  $\|\alpha_1 y_1 + \dots + \alpha_n y_n\| < \rho$  ナル様ニ  $\rho$  ヲ選ベバ、

$$\delta^n f(x; y_1, \dots, y_n)$$

$$= \frac{1}{(2\pi i)^n} \int_C \frac{d\alpha_1}{\alpha_1^2} \int_C \frac{d\alpha_2}{\alpha_2^2} \dots \int_C \frac{f(x, \alpha_1 y_1 + \dots + \alpha_n y_n)}{\alpha_n^{2n}} d\alpha_n$$

( $C$  =  $\|\alpha_i\| = \rho$  ナル田ヲ表ハス)

$G = \{ (x, \alpha_1 y_1 + \dots + \alpha_n y_n) \mid x \in G_0, \|\alpha_i\| = \rho \text{ (} i=1, \dots, n \text{)} \}$  トスルニ  $G$  ハ compact set トナル。

故ニ  $M_G$  ナ存在シテ  $\|f(x, y)\| \leq M_G$  ( $(x, y) \in G$ ) トナル

今  $f(x = \alpha, y_1 + \dots + \alpha_n \alpha_n) = \text{fix } \gamma \text{ 特} = \alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_{n-1}$   
 $\gamma$  fix する  $U_1(x, y)$  と同様 = して

$$\int_C \frac{f(x, \alpha_1 y_1 + \dots + \alpha_{n-1} y_{n-1} + \alpha_n y_n)}{d_n^2} d\alpha_n \quad x = \gamma \neq$$

正則 + する 且  $\gamma$   $G$  での 有界  $R$  + する.

次に  $\alpha_{n-1} = \gamma$  として 考へる

$$\int_C \frac{d\alpha_{n-1}}{d_{n-1}^2} \int_C \frac{f(x, \alpha_1 y_1 + \dots + \alpha_{n-1} y_{n-1})}{d_n^2} d\alpha_n \quad x = \gamma \neq$$

regular + する. 以下  $\gamma$  の 様 子 ごと  $\delta^n f(x; y_1, y_2, \dots, y_n)$  の  $y_1, y_2, \dots, y_n$  を fix した 時  $x = \gamma \neq$ .

regular + する 今  $y_2, \dots, y_n$  を fix する

$\delta^n f(x; y_1, y_2, \dots, y_n)$  の  $x = \gamma \neq$  regular である

$y_1 = \gamma \neq$  連続 + する 故 Kerner, 定理 = 有り  $(x, y_1) = \gamma \neq$  連続 + する.

次に  $y_2, \dots, y_n$  を fix する  $(x, y_1) = \gamma \neq$  連続

する  $y_2 = \gamma \neq$  linear + する 故 Kerner, 定理 = 有り

$(x, y_1, y_2) = \gamma \neq$  連続 + する. 以下 同様 して

$\delta^n f(x, y_1, \dots, y_n)$  の  $(x, y_1, \dots, y_n) = \gamma \neq$  連続 + する.  $y_1 = \dots = y_n = \gamma$  と する  $\delta^n f(x; y_1, \dots, y_n)$

は  $U_n(x, y)$  の  $(x, y) = \gamma \neq (T, E')$  を 連続 + する 様  $\gamma \neq$  定理  $B = \exists$  有り  $U_n(x, y)$  の  $(T, E')$  を 正則 + する

次に  $(T, T') = \text{合} = \text{する} \text{ 任意, compact set } \gamma \neq G$  + する.  $G, T, T', \text{ project } \gamma \neq R \text{ } G_0, G_1$  + する

$G_0, G_1$  の 大  $T, T' = \text{合} = \text{する} \text{ compact set } + \text{する}, \max_{y \in G_1} \|y\| = \rho < S$  + する.

$C$  の  $|d| = \rho$  ( $1 < \rho < \frac{S}{\rho}$ ) + する 因  $T$  + する  $G \times G_1$  の  $T'$  の compact set + する. 故  $G = (G_0, C \times G_1)$  と する  $G'$  の  $(T, T')$  を compact set + する 故  $M$  + する  $M G'$  が 存在 して

$$\|f(x, y)\| \leq M G' \quad (x, y) \in G'$$

一  $G \subset (G_0, G_1)$  + する 故  $(x, y) \in G$  + する + する

$$U_n(x, y) = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{f(x, \alpha y)}{\alpha^{n+1}} d\alpha \quad (n=1, 2, \dots)$$

$$\|U_n(x, y)\| \leq \frac{MG}{\rho^n}$$

故  $f(x, y) = \sum_{n=0}^{\infty} U_n(x, y)$  は  $G$  で一様収斂スル。

$G$  の任意ナル  $z = f(x, y)$  は  $(T, T')$  で正則トナル。

**[系]**  $f(x, y)$  は  $E \times E'$  の領域  $D$  で定義セラレ  $E'$  の値ヲトルトキ

i)  $D$  で  $x$  を fix スレバ  $y =$  ツキ正則,

$y$  を fix スレバ  $x =$  ツキ正則

ii)  $(x, y) \in D$  ナルトキ常  $\|f(x, y)\| \leq M$

ナルトキ  $f(x, y)$  は  $D$  で正則トナル。

**[証 2]** 定理 1 の証明 = 定理 A を用ヒマシタガ、之ニ  
次、Lemma を用ヒ直接証明出来マス。

Lemma.  $\{U_n(x)\}$  は  $E$  で定義セラレ  $E'$  の値ヲトル

$P$  次ノ homogeneous polynomial トスルトキ  
 $E$  ノアル莫  $X_0$  近傍で  $\lim_{n \rightarrow \infty} U_n(x)$  が存在スレ  
バ  $U_n(x)$  は  $E$  で  $P$  次ノ homogeneous polynomial  
 $U(x) =$  収斂スル。

( $A, E$ , Taylor 代ノ定理 A を用ヒ、" $U_n(x)$  が  $E$  で収斂スル  
トキ  $U(x) =$  収斂スル" 事ヲ証明シテ居リマスカ、  
Lemma ノ唯一莫ノ近傍ガケテ収斂スレバモ、ノテス  
カラ 条件ハユルヲナツテ居リ。且直接容易ニ証明  
出来マス。) 一般性ヲ失ハズ  $= T(\|x\| < \rho)$  で  $f(x)$  が  
正則ナル事ヲ証明スル。

$$f_n(x) = \sum_{p=0}^{\infty} U_{np}(x), \quad U_{np}(x) = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{f_n(\alpha x)}{\alpha^{p+1}} d\alpha$$

$$(C: |\alpha| = \rho, \quad 1 < \rho < \frac{\rho}{\|x\|})$$

$\{U_{np}(x)\}$  は  $P$  次ノ齊次多項式テアル。  $x$  を fix スレバ  
 $\alpha x (\alpha \in C)$ , compact set トナル故アル  $M$  が  
在リ,  $\|f_n(\alpha x)\| \leq M \quad (n=1, 2, \dots)$

$$\therefore \|f_n(\alpha x) - f_m(\alpha x)\| \leq 2M$$

$$\|U_{np}(x) - U_{mp}(x)\| \leq \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} \|f_n(\alpha x) - f_m(\alpha x)\| d\theta$$

故 = Lebesgue 1 定理 =  $\exists \epsilon > 0$   $\lim_{n \rightarrow \infty} \overline{\lim}_{m \rightarrow \infty} \|U_{np}(x) - U_{mp}(x)\| \leq 0$

$E'$  " complete + ル 故  $\lim_{n \rightarrow \infty} U_{np}(x) = U_p(x)$  ト オ ケ バ

$U_p(x)$  " Lemma =  $\exists$   $p$  次, homogeneous polynomial + ル。又  $T$  内, 任意, compact set  $G = \{x \in T \mid \|f_n(x)\| \leq M_G\}$  + ル 故 =  $1 < p$  が 存在 シ,

$$\|U_{np}(x)\| \leq \frac{M_G}{p^p} \quad \|U_p(x)\| \leq \frac{M_G}{p^p} \quad + \text{ル。}$$

依ッテ,  $f(x) = \sum_{p=0}^{\infty} U_p(x)$  ト ナリ  $G$  テ 一様 収斂 スル。  
 ナ  $f(x)$  "  $T$  テ 正則 テ アル。

— 以上 —

1) P. E. Taylor : On the properties of analytic functions in abstract spaces Math. Ann. 115, (1938)

2) M. Kerner : Zur Theorie der impliziten Funktional - operation. Studia Math. T. II (1931) コノ 論文 中 "  $f(x, y)$  が  $x = 0$  中 連続  $T$  中  $y = 0$  中 linear + ル トキ  $f(x, y)$  "  $(x, y) = 0$  中 連続 + ル " 事ヲ 証明 シ テ アリマス。